

平成28年度

運営に関する計画

【最終評価】

学校教育目標

人間尊重の教育を基盤とし、個性を生かし、豊かな人間性を
育て、たくましく生きる力をはぐくむ教育を推進する。

学力の向上

基礎・基本の定着

道徳心・社会性の育成

豊かな人間性や生きる力を育む

健康・体力の保持増進

健康な生活習慣の確立、食育

特別支援教育の充実

生徒の自立や社会参加に向けての支援

大阪市立墨江丘中学校

平成29年2月

1 学校運営における現状と課題（平成27年度各結果より）

- ・H27年度実施の「全国学力・学習状況調査」における成績、調査結果から見られる、次のような現状から改めて課題を設定する。（カリキュラム改革）
 - （1）国語においては、ほとどの項目で大阪市平均と同等であるが、全国平均に比すると改善も見られたが、まだ、A・B問題とも2～3ポイント程度若干低い状況にある。さらなる言語活動の充実を意識した授業展開や習熟度別少人数授業等で、生徒の基礎的学力向上を図り、すべての項目で全国平均値に近づくまたは少しでも上回りたい。
 - （2）数学においては、すべての項目で大阪市を上回っており、ほぼ全国値にも近く、特に今回は改善が見られる。習熟度別の授業の効果を今後も期待し、質問項目での公式や決まりでの根拠理解に劣りが見られる、論理的思考の部分での改善を意識し、授業展開では、活用力、応用力が身につく授業でしっかり力をつけさせる。
数値的には、ポイントでさらに、3ポイント程度は、全国平均値を上回りたい。
 - （3）理科においては、大阪市平均を上回るものの、全国平均とは、4ポイント余りの開きがある。理科に興味関心を持たせ、理解力を付け、学力の定着を図りたい。
 - （4）学習状況、意識調査の結果からは、学力向上の観点からは全国平均に比して劣りが見られる復習時間の不足について、その定着および時間の確保をさせたい。また社会性、規範意識の観点では、規則を守ると回答した割合が全国平均値を上回っているので、さらに100%へ近づくよう全体として向上させる。また社会性での仲間意識では、いじめの否定、友達への協力など、この点では100%を目指す。
- ・H27年度実施の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における成績、調査結果から見られる、次のような現状から改めて課題を設定する。（カリキュラム改革）

前年に比し、ほぼすべての項目で全国平均を上回る結果となっている。ただ、意識調査では、運動やスポーツを苦手と考える生徒の割合が依然高い。その観点から、運動、スポーツの楽しさを、授業や部活動を通して実体験させ、意識向上を図りたい。授業では、苦手意識の解消のため、自らの体育的課題を設けて、学習と同じように目標を明確にさせる。

また、部活動では、運動部に限らず、学校全体の活性化に向けて、元気あふれる学校ムードを作り上げる。部活動加入率を10%上げ、90%以上を目指す。
- ・H27年度実施の「大阪市英語能力判定テスト」における結果から見られる、次のような現状から改めて課題を設定する。（グローバル改革）

ほぼすべての項目（語彙、英文構成、読解、リスニング）を平均すると大阪市平均値をに上回る結果が出ている。各項目ごとには見直しを図り、さらに基礎、基本固めを確実に行う。

今後の課題としては、この学力を、実践的な英語力、グローバル意識の高まりなど現在、行っている国際交流、英検対策など英語イノベーション事業に結びつく、実践的な英語力の向上につなげたい。そのためには、身近に英語があるような環境作り、客観テスト（英語能力試験など）の結果向上への発展など、具体策を講じる。
- ・総合的な視点からの学校課題（マネジメント改革）

本校における現状をまとめると、学習に対する意識度は全般に高く、それを持続した目標意識とさせたい。運動、スポーツに対する意識も高いので、学校全体としては、いわゆる文武両道を通じた総合的な学力、生活力を持った生徒育成を目標とし、学校経営の中で、学習活動の充実とともに部活動の活性化も、ぜひ、図りたい。部活動の活性化は学力向上と強く連携していると考える。また、生徒意識の中では、互助的、協力的精神の育成は学校内の友人関係に限らず、地域を支えて下さる皆さんにも向けた幅広い社会性を持ったものでなければならない。

2 学校運営の中期目標

【視点 学力の向上】

- ・ H29 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を 50%以上に向上させる。
(マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と答える生徒の割合を 80%以上にする。
(マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「先生は教え方をいろいろ工夫している」と答える生徒の割合を 80%以上にする。
(マネジメント改革関連)
- ・ H29 年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業で自分の考えを発表する機会を与えられていると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。
(マネジメント改革関連)
- ・ 朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで H29 年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。
(マネジメント改革関連)
- ・ H29 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか」の項目について「難しい（どちらかといえば難しい）」と答える生徒の割合を 10%減少させる。
(マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・ H29 年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 100%に到達させる。
(カリキュラム改革関連)
- ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「学校の規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の割合を 100%に近づける。
(カリキュラム改革関連)
- ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 100%に向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ・ 部活動の入部率は運動部、文化部を合わせて 80%以上である。この高い数値を維持するよう、部活動の活性化を図るため、各部で使用する用具、器具等の充実に努め、地域との交流も深める。
(カリキュラム改革関連)
- ・ 文化的感性を高めるため、芸術鑑賞等を積極的に実施する。
(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ・ H29 年度の全国学力・学習状況調査における「朝食は毎日食べている」と答える生徒の割合を 95%以上にする。
(マネジメント改革関連)
- ・ H29 年度の全国体力・運動能力・運動習慣調査における各学年の合計得点を、毎年度、3%以上向上させる。そのため、部活動の充実、活性化を維持する。
(マネジメント改革関連)

【視点 特別支援教育の充実】

- ・ H28 年度末までに、多様な障がいに応じた指導をさらに充実させるため、教育環境に配慮し、整った施設環境の中で個人に応じた学習、進路を保障していく。
(マネジメント改革関連)

3 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点 学力の向上】

- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合を H27 年度より 5 % 向上させる。
[35. 8%] (マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と答える生徒の割合 8 0 % 以上にする。
[72. 0%] (マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業で自分の考えを発表する機会を与えられていると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 7 0 % 以上にする。
[63. 1%] (マネジメント改革関連)
- ・ 朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることで H28 年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 6 0 % 以上にする。
[53. 5%] (マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか」の項目について「難しい（どちらかといえば難しい）」と答える生徒の割合を 5 % 減少させる。
[68. 2%] (マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 1 0 0 % に近づける。
[96. 0%] (カリキュラム改革関連)
- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。」について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の割合を 1 0 0 % に近づける。
[94. 4%] (カリキュラム改革関連)
- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の割合を 1 0 0 % に近づける。
[98. 3%] (カリキュラム改革関連)
- ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えている」と答える生徒の割合を 5 % 向上させる。
[65. 0%] (カリキュラム改革関連)
- ・ 芸術文化を鑑賞することで、ものの考え方や文化に対して関心を持つ心を育てる。
(カリキュラム改革関連)
- ・ 部活動を通して、生徒の規範意識を高め、社会で力強さの人としての逞しさを身につけさせる。
また、地域社会への貢献要素として、活動を披露したり、ともにスポーツ、文化活動を楽しみ交流することで地位社会の構成メンバーとしての自覚を持たせる。
(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

- ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「自分の健康に気をつけている」と答える生徒の割合を 5 % 向上させる。
[76. 0%] (マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「朝食は毎日食べている」と答える生徒の割合を 9 5 % 以上にする。
[93. 2%] (マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における各学年の合計得点を、H27 年度より現時点で 3 % 向上させる。
(マネジメント改革関連)

【視点 特別支援教育の充実】

- ・多様な障がいに応じた指導を充実させ、生徒の自立への可能性を最大限に伸ばし、個々に応じた進路を保障していく。 (マネジメント改革関連)
- ・個に応じた指導・支援のあり方を工夫するために、支援を必要とする生徒の実態把握に努め、「個別の支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し個々のニーズに応じた具体的な指導、支援方法について研究する。 (マネジメント改革関連)
- ・生徒の実態を的確に把握し、支援を充実させるために、校内での支援体制の整備や特別支援学校のセンター的活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。 (マネジメント改革関連)

4 本年度の自己評価結果の総括

【視点 学力の向上】

・H28年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合がH27年度より少し上昇し40%であった。基本的な家庭学習の定着を引き続き図る必要がある。

(カリキュラム改革関連)

・H28 年度生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と答える生徒の割合は 73%（目標 80%）で、引き続き、授業改善の必要性を認める。

(マネジメント改革関連)

・H28 年度生徒アンケートにおける「先生は教え方をいろいろ工夫している」と答える生徒の割合が 75%（目標 80%）であった。改善方向にあるので目標値に近づくよう工夫をしたい。

(マネジメント改革関連)

・H28 年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業で自分の考えを発表する機会を与えられていると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合が 82%（目標 80%）とすることができた。さらなる授業工夫を求めたい。

(カリキュラム改革関連)

・読書活動を充実させることでH28 年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合は 72%と目標 65%を超え全国レベルに達した。引き続き、工夫された読書啓蒙に取り組むこととする。

(マネジメント改革関連)

【視点 道徳心・社会性の育成】

・H28 年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合が 95%と高水準を維持、目標 100%に近づくことを目指す。 (カリキュラム改革関連)

・H28 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の割合が 97%とほぼ目標 100%に近づいている。この規範意識を大切に維持したい。

(カリキュラム改革関連)

【視点 健康・体力の保持増進】

・H28 年度の全国学力・学習状況調査における「朝食は毎日食べている」と答える生徒の割合は H27 年度とほぼ同率の 92%であった。引き続き家庭の協力を得たい。

(カリキュラム改革関連)

【視点 特別支援教育の充実】

・個別の指導の充実を図り、3 年生も個々の進路決定に努力している。 (マネジメント改革関連)

(1) 学力の向上

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合をH27年度より5%向上させる。 [35.8%] (マネジメント改革関連) ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と答える生徒の割合80%以上にする。 [72.0%] (マネジメント改革関連) ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業で自分の考えを発表する機会を与えられていると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。 [63.1%] (マネジメント改革関連) ・ 朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることでH28年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を60%以上にする。 [53.5%] (マネジメント改革関連) ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか」の項目について「難しい（どちらかといえば難しい）」と答える生徒の割合を5%減少させる。 [68.2%] (マネジメント改革関連) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【国語科：言語力や論理的思考力の育成】</p> <p>筋道を立てて物事を考え、表現できるように努めさせる。</p> <p>指標 定期テストに、作文や書く形式のものを出题し、指導を行う。</p>	B
<p>取組内容②【国語科：自主学習習慣の確立】</p> <p>基礎的な漢字の習熟に努めさせ、文字を正しく丁寧に書く習慣を養う。</p> <p>指標 常用漢字を3年間で学習させる。また月に1回提出させ指導を行う。</p>	A
<p>取組内容③【国語科：習熟度別少人数授業の充実】</p> <p>分割授業を行うことで授業の充実を図る。</p> <p>指標 週に1回分割授業を行う。必要に応じてティームティーチングも取り入れる。</p>	B
<p>取組内容①【社会科：言語力や論理的思考能力の育成】</p> <p>資料を読み取り、分析・判断した内容を適切に表現できるような課題を計画的に課す。</p> <p>指標 夏季課題として、それぞれの分野で新聞づくりに取り組ませた。 社会事象に関するディベートの取り組みを進めている。</p>	B
<p>取組内容②【社会科：基礎知識の定着】</p> <p>各分野において、基本的な内容が理解できるようにする。</p> <p>指標 単元ごとを目安に、小テストや復習課題を計画的に課す。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標		達成状況
取組内容①【数学科：基礎知識の定着】 学習内容を繰り返し練習できる課題を与え、小テストを実施する。	指標 学習進度に合わせ課題を与え、定期的に小テストを実施する。	B
取組内容②【数学科：習熟度別少人数授業の充実】 複数担当で行い、習熟度に応じた指導を実施する。		
取組内容③【数学科：ICT を用いた指導】 ICT を用いた授業を取り入れることで、興味関心を持たせ、理解を深める。	指標 関数や図形などの単元で ICT を活用する。	B
取組内容①【理科：基礎知識の定着】 各分野において、基本的な内容が理解できるようにする。		
取組内容②【理科：科学的思考力の向上】 日常生活のあらゆる場面において、実験・観察を試みようとする生徒を増やす。	指標 身近な物を使って行う実験・観察を増やし、興味関心を持たせ、思考力を高める。	B
取組内容③【理科：総合的な科学認識の獲得】 科学的な視点を持ち、入試に適応できる力を持つ生徒を育成する。		
取組内容①【音楽：基礎知識の育成】 視聴覚教材などを使用し、楽典、音楽史、鑑賞知識などの内容を理解できるようにする。	指標 普段の生活の中でも、音楽に興味関心を持つ生徒を増やす。	B
取組内容②【音楽：演奏技術の育成】 アルトリコーダーの運指を正確に覚え演奏し、感情豊かな歌唱ができるようにする。		
取組内容①【美術：発想力・表現力の向上】 アイデアスケッチの段階で自分のイメージを大切にし、発想・思考力の向上を図ると共に色や形を工夫して表現する力を養う。	指標 各課題でアイデアスケッチを確認し、必要に応じてアドバイス・フォローする。	B
取組内容②【美術：鑑賞・言語活動の充実】 作品・作者紹介、合評会、作品発表などの機会を設ける。		
取組内容①【保健体育科：保健体育教育の充実等】 学校の教育活動(各教科、道徳、特別活動の各領域との関連)における集団行動の基礎を身につける。	指標 集団行動を授業開きに徹底する。 授業内でのルールを毎時の導入等で明確にし、授業規律を守らせる。	B
取組内容②【保健体育科：習熟度別少人数授業の展開】 グループ活動やコミュニケーションを図る場を多く設け、言語活動の充実を図る。		
取組内容③【保健体育科：習熟度別少人数授業の展開】 グループ活動やコミュニケーションを図る場を多く設け、言語活動の充実を図る。	指標 各領域でグループ活動や習熟度別の活動を増やす。	B
取組内容④【保健体育科：習熟度別少人数授業の展開】 グループ活動やコミュニケーションを図る場を多く設け、言語活動の充実を図る。		

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【技術家庭科：安全対策】</p> <p>学習環境の整備に努め、機器、用具、工具の正しい使用方法を習得させ、安全指導の徹底を図る。</p> <p>指標 実技テストを実施する。事故実例を示す。手本を示し、模倣工夫させる。</p>	B
<p>取組内容②【技術家庭科：技術家庭科教育の充実】</p> <p>題材の工夫と班活動を中心とした学習形態により、生活に必要な知識、技能の習得に努める。</p> <p>指標 班活動において、活発に活動できる場を設ける。</p>	B
<p>取組内容①【英語科：習熟度別少人数授業の充実】</p> <p>習熟度に応じた教材で、個に応じた指導を実施する。また、習熟度に応じて英語力、意欲の向上を図る。</p> <p>指標 年間を通じて計画的に習熟度別少人数授業を実施する。</p>	B
<p>取組内容②【英語科：基礎・基本の定着を図る】</p> <p>基礎的な英単語や英文の習熟に努める。</p> <p>指標 教科書などの文章の暗唱や、単語テストを単元ごとに実施する。</p>	B
<p>取組内容③【英語科：世界の文化や伝統を理解しようとする態度を養う】</p> <p>英語を通じて世界の文化を理解する。</p> <p>指標 C-NETとのTT授業を実施し、学習した内容についてのスピーチや発表、意見交流を行う機会を設ける。</p>	B

年度目標の達成状況の結果と分析

【国 語 科】

- ① 授業の目標に対する積極的な取り組みにより、基礎的な学力が定着した。
- ② 定期テストに作文を出題することで記述力がついてきた。
- ③ 少人数授業で、個々の生徒に適した指導をすることにより文法の定着を図った。

【社 会 科】

- ① 基礎学力の定着に関しては、一定の成果が上がっている。
- ② 夏季課題として、それぞれの分野で新聞づくりに取り組ませた。内容、表現の面で、工夫された作品が多かった。
- ③ 単元ごとを目安に、小テストや復習課題を計画的に課した。基礎の定着の確認をすることができた。

【数 学 科】

- ① 単元内ごとで定期的な小テストを実施し、基礎の定着の確認を進めた。
- ② 基礎・標準(発展)コースの2コースに分け、1年は週2／4時間、3年は1／4時間で習熟度別少人数授業を進めるよう努めた。少人数授業により、個に応じた指導に努めた。
- ③ ICT 機器を使って、授業に使えるかを考えた。また、1年では ICT 機器を使うことで興味関心を持たせることができた。

【理 科】

- ① 本事項の小テスト・復習事項の発問を随時行い、基礎知識の定着を図った。
- ② 身のまわりにあるものを教材にしたり、教室に教材を持ち込み、実験観察の機会を増やした。問題をステップアップ式に並べ、生徒同士で教えあう機会をつくった。個別評価することで意欲的に思考させることができた。
- ③ 理科便覧や ICT 教材を使いモデルを利用して視覚から理解を深め、発展的な内容も考えさせることができた。1、2年にも、公立高校の入試問題に取り組む機会を設けた。

【音 楽 科】

- ① 前時の学習が理解できているかの確認の時間を多く取り、楽典の基礎知識の定着を図った。歌唱、楽器演奏時に音楽記号、音符、休符等、楽譜の内容が理解できるように基礎知識の定着を図った。
- ② アルトリコーダーの運指を正確に覚え、演奏できるようになり、リコーダー演奏の基礎技術が高まるようになった。

【美 術 科】

- ① 自分なりの発想を大切にできるよう、様々な見本を見せながらアイデアスケッチを描かせた。また、基礎的な内容を中心に個別にフォローし、見る力、描く力を伸ばすよう努めた。
- ② 作品・作者紹介などの機会をできるだけ多く設けるよう努めた。校内の文化祭をはじめ、校外では総合文化祭、造形展、近中美展などで発表できた。

【保健体育科】

- ① 集団行動の基礎の定着ができた結果、学校生活や行事など、他の教育活動を能率的に、安全にできた。
- ② 各領域でグループ学習を取り入れた。その中でリーダーを中心に、グループで課題解決に努めさせた。リーダー育成だけではなく、学び合う関係「協同的な学び」に発展できるように、課題を提示し、活動させた。言語活動を充実させることができ、また、コミュニケーション能力の育成につなげることができた。

【技術家庭科】

- ① 作業ごとに機器、用具の正しい使用法の徹底を図り、整理整頓を意識させながら、安全指導に努めた。大きな事故・けがはなかった。
- ② 実習作業時は班活動を実施し、生徒自らが互いにアドバイスや作業の協力ができるような雰囲気作りに心がけた。

【英 語 科】

- ① 1・2年生で習熟度別少人数授業を予定どおり実施できた。英検準会場の実施、模擬面接講習の実施も行い、学習意欲の向上に努めた。
- ② ICT機器を基礎的な単語、重要文の暗記項目、音読、リスニングなどに積極的に活用した。またパソコン利用で学習ソフトを使用し、個の進度に応じた授業も全学年で実施した。
- ③ 学年でC-NETとのTTを実施し、コミュニケーション能力の育成につなげた。また台湾生徒との交流授業などにも取り組み、外国の文化に対する関心や理解を深めた。

次年度への改善点**【国 語 科】**

読解力がつくように授業を工夫し、朝読書などで豊かな言語能力の向上に努める。
生徒の興味関心に応じた教材を活用し、アクティブラーニングを充実させる。
小テストを繰り返して、基礎学力を充実させる。

【社 会 科】

反復学習により、基礎学力の定着を図るとともに、思考力の向上に努める。
小テスト等を繰り返し実施することで、基礎定着を図る。
興味、関心に応じて、基本的な内容・発展的な内容に ICT を利用していきたい。

【数 学 科】

反復練習でより基礎定着を図るとともに、習熟度に応じて、基本的な内容・発展的な内容に ICT を利用する等、さらに力を入れていきたい。

【理 科】

来年度の1年生にも理科便覧を購入させ、科学的視点・思考力の育成のために活用していきたい。科学番組などを利用したり、視聴覚教材・モデル・拡大掲示物など充実に努める。
他校の先生方の実践などから、授業のパーツ、パターンを学び、充実に図りたい。

【音 楽 科】

来年度も、親しみやすい楽曲を選択し、アンサンブルなどを取り入れ、協力し合い、楽曲を完成させる達成感とともに、音楽に対する興味関心を高められる実践に努める。
視聴覚教材など、より生徒が音楽に興味関心を高められる教材を取り入れ、意欲の向上を図りたい。

【美 術 科】

落ち着いて制作する姿勢、計画性、思考力を養えるよう、指導に努める。
今後も作品完成時の合評会や鑑賞会を実施し、多くの作品に触れる機会を作っていきたい。
I C T機器や映像資料を用い、視覚に働きかける授業に努めたい。

【保健体育科】

傷害の防止に努める。環境の充実に図り、体力や意欲の向上につなげる。

【技術家庭科】

実習室の環境整備をより一層努めていき、安全指導に徹底していきたい。I C T機器を効果的に活用していきたい。

【英 語 科】

習熟度別少人数授業、I C T機器の使用、C－N E TとのT T、英検団体受付実施、国際交流事業など、より積極的、効果的な活用に努め、学力や意欲の向上につなげる。

(2) 道徳心・社会性の育成

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【視点 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を100%に近づける。 [96.0%] (カリキュラム改革関連) ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。」について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の割合を100%に近づける。 [94.4%] (カリキュラム改革関連) ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の割合を100%に近づける。 [98.3%] (カリキュラム改革関連) ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えている」と答える生徒の割合を5%向上させる。 [65.0%] (カリキュラム改革関連) ・ 芸術文化を鑑賞することで、ものの考え方や文化に対して関心を持つ心を育てる。 (カリキュラム改革関連) ・ 部活動を通して、生徒の規範意識を高め、社会で力強さの人としての逞しさを身につけさせる。また、地域社会への貢献要素として、活動を披露したり、ともにスポーツ、文化活動を楽しみ交流することで地位社会の構成メンバーとしての自覚を持たせる。 (カリキュラム改革関連) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【人権・道徳教育委員会：道徳教育の推進、人権を尊重する教育の推進】</p> <p>思いやりの心、協力し合う態度を育成し、自他の心身を大切にすることを育てる。</p> <hr/> <p>指標 道徳の教材を十分活用し、時間を確保できるように道徳教育委員会を充実させる。</p> <p>また、人権尊重の精神を基本とする心を育てるため、「総合的な学習」なども活用し、学習の時間を確保できるように人権教育委員会を充実させる。</p>	B
<p>取組内容②【人権・道徳教育委員会：キャリア教育の推進】</p> <p>自分自身の生き方について深く考え、進んで切り拓く態度を育てる。</p> <hr/> <p>指標 「総合的な学習」「道徳」の時間などを十分活用できるように、人権・道徳教育委員会の充実や進路委員会との連携を図る。</p>	B
<p>取組内容①【生活指導部：人権を尊重する教育の推進】</p> <p>全校集会、学年集会でいじめについて指導する。</p> <hr/> <p>指標 学期に1回の出来事を記入させ、確認する。</p>	B
<p>取組内容②【生活指導部：道徳教育の推進】</p> <p>全校集会、学年集会や道徳授業を通して集団規律や人を思いやる心について指導する。</p> <hr/> <p>指標 委員会活動を最低月1回召集・活性化させ、「みんなのために」の心で貢献させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【その他：部活動】</p> <p>部活動を通して、生徒の規範意識を高め、さまざまな技術や知識を身につけさせる。</p> <hr/> <p>指標 集団での規範意識をつけ、達成感や充実感を味わえるよう、日々の活動や大会、コンサートへの参加、地域行事への参加を活発にする。</p>	B
<p>取組内容②【その他：情操教育】</p> <p>芸術文化を鑑賞することで、文化に対して関心を持つ心を育てる。</p> <hr/> <p>指標 文化祭の一環で芸術鑑賞会を実施し、日本の伝統文化や様々な表現活動に触れる良い機会とする。</p>	B
年度目標の達成状況の結果と分析	
<p>【人権・道徳教育委員会：道徳教育の推進、人権を尊重する教育の推進】</p> <p>学校行事、道徳、人権学習を通して、また各学年、学習の状況に応じた計画をたて、おおむね実施できている。また人権教育委員会は隔月で、道徳教育委員会は毎月行うことにより時間の確保、内容の充実に努め、より計画的に教育の推進ができるように努めた。</p> <p>年間指導計画を立て、各学年、学習の状況に応じた計画をたて、学校行事、道徳、人権学習を通して、道徳教育、人権教育を推進することができた。また道徳は、今年度から全学年で、道徳教科化に向けて担任が授業をするように実施した。</p> <p>【人権・道徳教育委員会：キャリア教育の推進】</p> <p>各学年の状況に応じて、進路学習を行うことができた。2年生では職場体験を実施した。</p> <p>【生活指導部：人権を尊重する教育の推進】</p> <p>学期に一回いじめアンケートを実施し情報収集に努めた。</p> <p>【生活指導部：道徳教育の推進】</p> <p>学年集会や道徳授業を活用し、人を思いやる心を育てた。</p> <p>【その他：部活動】</p> <p>日々の活動の中で集団での規範意識を身につけ、達成感を味わえるよう指導した。練習試合、大会、コンサート、地域行事へも活発に取り組めた。また、多くの部活動が、優秀な結果を残すことができた。</p> <p>【その他：情操教育】</p> <p>パントマイムの公演を鑑賞し、普段触れる機会のない身体表現のみの舞台を身近に感じる事ができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>【総合・道徳教育委員会：道徳教育の推進、人権を尊重する教育の推進】</p> <p>心に響く道徳教育（「考え・議論する」「豊かに感じ取れる」「実践意欲の高まる」道徳）とするために授業の内容や指導の仕方を考えていかなければならない。</p> <p>また平成31年度教科化完全実施に向けて、より一層の系統立てた計画が必要になるため委員会などの充実を通して意識を高めていく必要がある。</p>	

【総合・道徳教育委員会：キャリア教育の推進】

道徳教育を通して、心に届く、知・情・意がはたらく機会をつくり、また進路学習や職場体験を通して自分の進路や将来の仕事に対しての意識を高められるように努める。

進路学習を通して自分の進路や将来の仕事に対しての意識が強まり、日々の授業に対する前向きな姿勢につながられるように努める。また2学年では職場体験を通して、挨拶やマナーなどの社会性を身につけられるように努める。そのためにキャリア教育と関連させる道徳授業を計画し、活かしていく必要がある。

【生活指導部：人権を尊重する教育の推進】

常にいじめに対して、正しい判断ができる集団づくりを推進していける環境づくりをしていきたい。行事を通じて仲間づくり、居心地の良い集団づくりをしていきたい。

【生活指導部：道徳教育の推進】

損得感情ではなく、善か悪かの判断基準を持ち正しい道徳心を持った生徒にしたい。

【その他：部活動】

練習、試合での声掛け、ミーティングを工夫し、生きていく力と関連づけ、自己形成の一助を担いたい。

【その他：情操教育】

今後も多彩な芸術表現活動に触れる機会を設けていく

（3）健康・体力の保持増進

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「自分の健康に気をつけている」と答える生徒の割合を5%向上させる。 [76.0%] (マネジメント改革関連) ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「朝食は毎日食べている」と答える生徒の割合を95%以上にする。 [93.2%] (マネジメント改革関連) ・ H28 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における各学年の合計得点を、H27 年度より現時点で3%向上させる。 (マネジメント改革関連)	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
取組内容①【保健体育科：体力向上への支援】 この時期に発育・発達する骨、筋肉、呼吸・循環器に重点を置き、より一層の発育・発達を図る。 <hr/> 指標 毎時間、ウォーミングアップで各学年に応じたランニングと補強運動を行う。	B
取組内容②【技術家庭科：食育】 家庭分野において朝食の重要性を知らせ、毎日朝食を食べるよう意識向上させる。 <hr/> 指標 朝食調査を実施し、必要性を確認する。朝食作りを実践する。	B
取組内容③【健康美化部：健康な生活習慣の確立】 保健委員会活動を活発化し、手洗い実験・食育・AED・熱中症対策講習会などを実施することで健康意識を高める。 <hr/> 指標 保健委員会で実施計画通りに実践する。	A
取組内容④【健康美化部：学校・家庭・地域との連携】 保健だよりや教科と連携し、朝食の大切さを知らせ、毎日食べるように促す。 <hr/> 指標 保健だよりを適切な時期に発行する。朝食調査を適宜実施する。	A

年度目標の達成状況の結果と分析

【保健体育科：体力向上への支援】

毎時間、約1kmのランニングを行った。運動習慣を確立できている生徒と、できていない生徒との差が大きい。体育授業時間内での活動量の確保、また行事などを通じて自ら運動する意識付けを行ってきた。全国体力・運動能力調査では男女ともに体力合計得点（T得点）が平均を上回ることができている。（男子全国 50.0 大阪府 48.5 墨江丘 52.2、女子全国 50.0 大阪府 48.7 墨江丘 52.1）

【技術家庭科：食育】

保健室との連携で、外部講師による食育の出前授業を1年生で実施することができ、食への意識を高めることができた。また、生活の中で朝食の大切さも知らせることができた。2年生では各自の朝食を調べ、栄養バランスを意識した朝食作りを興味を持って、実践することができた。

【健康美化部：健康な生活習慣の確立】

生徒保健委員会において「手洗い」「食育」「応急処置」の3つのテーマに応じたプロジェクトチームを設立し、それぞれの分野で生徒が主体となって活動することができた。今後も関係機関と連携しながら取り組みをより発展させることで、生徒の達成感・自己肯定感を深め、他の生徒への啓発普及により、さらに健康意識を高められるように取り組んでいきたい

手洗い実験…区役所保健福祉課との連携による手洗い講座を実施

食育…住吉区栄養士による食育講座・区内中学校合同保健委員会での食育講座・住吉区食育展への掲示物展示・試食会・市立大学学生の出前講座

AED…大阪市消防局公認「救命入門コース」の実施・区内中学校合同保健委員会での普通救命講習会参加・すみよしまつりへのAED体験ブース出展

熱中症対策講習会…学校薬剤師による講習会

【健康美化部：学校・家庭・地域との連携】

毎月保健だより・食育つうしんを作成し、知識の普及及び校内の様子を発信することができた。また、中学校給食の試食会を実施するうえで、校下小学校と住吉区栄養士・市立大学生活科学部の教員にも参加していただき、家庭・地域・学校での情報交換の場となった。

中学校給食の残食調査を市立大学と連携してすすめ、その調査結果をもとに市立大学学生による出前授業を家庭科の授業とも連携して1年生に実施した。区内中学校の合同保健委員会では、各校の情報交換し、地域のイベントにも積極的に参加することで、連携を深めることが出来た。

次年度への改善点**【保健体育科：体力向上への支援】**

生涯に渡って自ら運動する習慣を身につけるきっかけをつくりたい。また、運動、スポーツ、自己の体に興味関心を高めるためにも、体育理論の授業を充実させたい。

【技術家庭科：食育】

健康に意識を高め、食べるだけでなく調理する食育教育にも努めていきたい。また、家庭の協力を得ながら実践力をつける課題に取り組んでいきたい。

【健康美化部：健康な生活習慣の確立】

それぞれの取り組みを今後も継続・発展させて、より健康意識を高めていきたい。

【健康美化部：学校・家庭・地域との連携】

保健だよりや食育つうしんを今後も継続発行していき、情報発信していきたい。学校・家庭・地域や区内中学校との連携は、健康に関する意識変容するにおいて必要だと感じるので、今後も連携を深めていきたい。

（４）支援教育の充実

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・多様な障がいに応じた指導を充実させ、生徒の自立への可能性を最大限に伸ばし、個々に応じた進路を保障していく。 (マネジメント改革関連) ・個に応じた指導・支援のあり方を工夫するために、支援を必要とする生徒の実態把握に努め、「個別の支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し個々のニーズに応じた具体的な指導、支援方法について研究する。 (マネジメント改革関連) ・生徒の実態を的確に把握し、支援を充実させるために、校内での支援体制の整備や特別支援学校のセンター的活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。 (マネジメント改革関連) 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
取組内容①【学力の向上】 個別学習または入り込みでの授業支援を行いICTの活用など個に応じた支援教材や教具の工夫をし、学力の向上を目指す。	A
指標 教科担当と連携を密にし、定期的に話し合う時間を設けて教材作りを工夫する。	
取組内容②【個別の支援計画・個別の指導計画の作成】 「個別の支援計画」「個別の指導計画」を作成し、教職員間での周知を徹底し個々の計画書に基づいて指導する。	A
指標 10月18日までに作成し、それに沿って指導する。また、見直しを行う。	
取組内容③【校内研修の実施】 多様な障がいについての理解を深めるため各学年、または学校全体で必要な研修を実施する。(3学期は検討中)	C
指標 年1回は校内研修をする。	

年度目標の達成状況の結果と分析

①【学力の向上】 ICTの活用により、視覚的部分での学習を増やし個に応じた指導に取り組んだ。個別学習では時間を確保し、指導内容を充実させ学習への興味関心を高められるように工夫した。そして、何度も反復練習を行うことによって学習内容の定着に努めた。
②【個別の支援計画・個別の指導計画作成】 年度当初に周知徹底をするために、拡大特別支援委員会を設けているが在籍生徒が多いため全教職員へのアプローチは難しいものがあつた。後期では、計画冊子を回収せず、さらなる周知徹底に努めた。
③【校内研修の実施】《平成28年度は実施なし》 教育委員会や外部機関等の巡回相談、今年度よりはじまったジョブアドバイザーによる支援相談を受け、さらに支援を充実させた。研修においては2学期以降に予定していた各学年での取り組みを実施することができなかった。来年度から3年間の校内研修を構築していけるようにする。

後半への改善点

① 【学力の向上】

ICT などの視覚教材を使うなど学習形態を工夫することで基礎学力を向上させる。また、学習の達成状況は異なるため、学習時間の確保、学習指導の方法をさらに工夫する必要がある。

② 【個別の支援計画・個別の指導計画作成】

個別の支援計画・個別の指導計画を使い在籍生徒個々の特徴や情報を学校全体に浸透させ共通理解をする機会を増やす。

② 校内研修の実施】

特別支援教育に関する理解を深めるために多種多様な障がいについての研修や、取り組みを積極的に行う。

平成 28 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立墨江丘中学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価はおおむね妥当である。

「学力の向上」に関しては、ほぼ期待通りの結果であった。特に「健康・体力の保持増進」については、さまざまな取組を実施していただいた。P T A保健委員会との連携も進んでいる。また、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果について、3年続けて非常に好い結果である。来年度も好い結果を維持していただきたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：学力の向上

- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合をH27 年度より 5 %向上させる。 [35.8%] (マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と答える生徒の割合 80 %以上にする。 [72.0%] (マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業で自分の考えを発表する機会を与えられていると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 70 %以上にする。 [63.1%] (マネジメント改革関連)
- ・ 朝の読書・図書館の活用、図書館ボランティアの協力などにより、読書活動を充実させることでH28 年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 60 %以上にする。 [53.5%] (マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しいと思いますか」の項目について「難しい（どちらかといえば難しい）」と答える生徒の割合を 5 %減少させる。 [68.2%] (マネジメント改革関連)

- ・ H28年度の全国学力・学習状況調査における「家で学校の授業の復習をしていますか」の項目について、「している（どちらかといえばしている）」と答える生徒の割合がH27年度より少し上昇し40%であった。基本的な家庭学習の定着を引き続き図る必要がある。 (カリキュラム改革関連)
- ・ H28 年度生徒アンケートにおける「授業はわかりやすい」と答える生徒の割合は 73% (目標 80%) で、引き続き、授業改善の必要性を認める。 (マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度生徒アンケートにおける「先生は教え方をいろいろ工夫している」と答える生徒の割合が 75% (目標 80%) であった。改善方向にあるので目標値に近づくよう工夫をしたい。 (マネジメント改革関連)
- ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「普段の授業で自分の考えを発表する機会を与えられていると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合が 82% (目標 80%) とすることができた。さらなる授業工夫を求めたい。 (カリキュラム改革関連)
- ・ 読書活動を充実させることでH28 年度の全国学力・学習状況調査の「読書は好きですか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合は 72%と目標 65%を超え全国レベルに達した。引き続き、工夫された読書啓蒙に取り組むこととする。 (マネジメント改革関連)

<p>年度目標：道徳心・社会性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を 100% に近づける。 [96.0%]（カリキュラム改革関連） ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか。」について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の割合を 100% に近づける。 [94.4%]（カリキュラム改革関連） ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の割合を 100% に近づける。 [98.3%]（カリキュラム改革関連） ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えている」と答える生徒の割合を 5% 向上させる。 [65.0%]（カリキュラム改革関連） ・ 芸術文化を鑑賞することで、ものの考え方や文化に対して関心を持つ心を育てる。 （カリキュラム改革関連） ・ 部活動を通して、生徒の規範意識を高め、社会で力強さの人としての逞しさを身につけさせる。 また、地域社会への貢献要素として、活動を披露したり、ともにスポーツ、文化活動を楽しみ交流することで地位社会の構成メンバーとしての自覚を持たせる。 （カリキュラム改革関連）
<ul style="list-style-type: none"> ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合が 95% と高水準を維持、目標 100% に近づくことを目指す。 （カリキュラム改革関連） ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「学校の規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」の割合が 97% とほぼ目標 100% に近づいている。 この規範意識を大切に維持したい。 （カリキュラム改革関連）
<p>年度目標：健康・体力の保持増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ H28 年度末の生徒アンケートにおける「自分の健康に気をつけている」と答える生徒の割合を 5% 向上させる。 [76.0%]（マネジメント改革関連） ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「朝食は毎日食べている」と答える生徒の割合を 95% 以上にする。 [93.2%]（マネジメント改革関連） ・ H28 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における各学年の合計得点を、H27 年度より現時点で 3% 向上させる。 （マネジメント改革関連）
<ul style="list-style-type: none"> ・ H28 年度の全国学力・学習状況調査における「朝食は毎日食べている」と答える生徒の割合は H27 年度とほぼ同率の 92% であった。引き続き家庭の協力を得たい。
<p>年度目標：特別支援教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な障がいに応じた指導を充実させ、生徒の自立への可能性を最大限に伸ばし、個々に応じた進路を保障していく。 （マネジメント改革関連） ・ 個に応じた指導・支援のあり方を工夫するために、支援を必要とする生徒の実態把握に努め、「個別の支援計画」「個別の指導計画」を作成・活用し個々のニーズに応じた具体的な指導、支援方法について研究する。 （マネジメント改革関連） ・ 生徒の実態を的確に把握し、支援を充実させるために、校内での支援体制の整備や特別支援学校のセンター的活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。 （マネジメント改革関連） ・ 個別の指導の充実を図り、3 年生も個々の進路決定に努力している。 （マネジメント改革関連）

3 今後の学校運営についての意見

- 今後も生徒のために、学力の向上、道徳心・社会性の育成、健康・体力の保持増進、特別支援教育の充実等に取り組んでいただきたい。
- 1 年生時からの成績が進路に影響するので、部活動運営上の配慮もこれまで以上にお願いしたい。
- 学校元気アップ地域本部との連携をさらに進めていただきたい。

児童生徒等の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査の結果から明らかになった現状

自校の取組の成果と課題

区分	成果と課題
① 暴力行為の状況等	暴力行為が行われやすい休み時間などの時間帯で教員による巡視強化を図る。また、学警連絡会などで近隣の学校や関係諸機関と連絡・連携を密にし、他校生との接触がないように指導している。
② いじめの状況等	学期始めにクラス担任が生徒一人ずつとの教育相談の時間をつくり悩みや相談できる環境をつくっている。学期ごとにアンケートを実施し、生徒の状況の把握に努めた。また、学年集会等でいじめに関する指導を定期的に行っている。
③小・中学校における不登校の状況等	毎月の生指部会、職員会議などで不登校生徒の状況を報告している。また、年2回の不登校生徒現況報告会で生徒が不登校になったきっかけや登校できるようになり改善されたケースなども報告しあい、教職員全体で共通理解の場を設けている。
④高等学校における長期欠席の状況等	
⑤高等学校における中途退学の状況等	

※ 両表とも、小学校・中学校は①②③の項目、高等学校は①②④⑤の項目、特別支援学校は学校の状況に応じた項目について、それぞれ記入すること